

住民投票とポスター・チラシ

大阪市廃止・特別区設置の是非を問う住民投票から3週間。自宅には膨大な関係資料があり、その整理を始めているが、なかなか進まない。歴史的な資料をできるだけ保存したいのだが、そのスペースが足りない。また大阪維新の会が性懲りもなく、「都構想」もどきものを提唱して、せっかくの大阪市存続を骨抜きにしようとしており、資料整理を遅らせている。大阪市民の皆さん、そして私にどれだけ迷惑をかけるのか、維新には腹が立つ。

写真は大阪・市民交流会のポスターとチラシである。11月1日の投票日午後、近所の投票所付近で、このポスターをもって一人でスタンディングした。自宅にいても住民投票のことが気になり、思い切って敢行した。初めての経験であり、忘れられないポスターである。

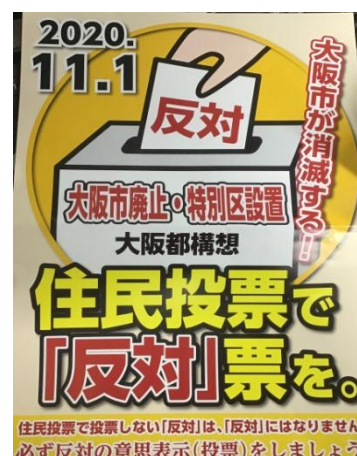
とりわけお年寄りの皆さんが注目してくれた。帰りがけに、「反対」と書いたと教えてくださる人もいた。住民投票からしばらくして新型コロナ感染が急拡大してきた。大阪市では「Go To トラベル」など「Go To キャンペーン」も影響しているのではないだろうか。

写真下のチラシも忘れられない。住民投票が近づいた頃、若者向けに作成されたチラシであり、交流会のなかで多くの議論を呼んだという。「選ぼう。私の、未来。」として、賛否が半々に紹介されている。これは批判を受けて作り替えられたものだが、基本は同じである。

チラシ裏には、成長戦略、二重行政、制度設計、教育環境、災害対策の5項目について、賛否それぞれの主張を要約している。住民投票で「反対」票を求める立場から、最終局面の闘いで物足りないという意見が出るのもやむをえないと思う。

でも大学生をはじめ若者には、こんなチラシの方がかえって効果的ではないか。問題を絞って字を大きくしたチラシなら、一般の人向けにもいいのではないか。最初から「反対」を大きく掲げるよりも、両論併記して問題を投げかけるチラシも必要ではないだろうか。

大阪市立大正門あたりで、このチラシを学生の皆さんらに数回配った。大学周辺の学生さんが住んでいそうなアパートにもポスティングした。コロナ禍で学生さんは少なかったが、チラシ表面を見せながら配ると、あんがい受けとってもらえた。写真の若い男女に抵抗感が和らぐのだろうか。まずは受けとってもらい、読んでもらうことが大切だ。



(2020年11月23日)